様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　５ 年　９ 月 ２８ 日現在

機関番号：３２６８９
研究種目：新学術領域研究（研究領域提案型）
研究期間：2017～2021
課題番号：１７Ｈ０６３３９

研究課題名（和文）戦争と植民地をめぐる和解文化と記憶イメージ

研究課題名（英文）Cultures of reconciliation and memories which concerns with Wars and colonial rules

研究代表者
浅野　豊美（Asano, Toyomi）

早稲田大学・政治経済学術院・教授

研究者番号：６０３０８２４４

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　33,480,000円

研究成果の概要（和文）：民主主義が制度として実際に機能するためには、民主の主体としての「民」、つまり「国民」という巨大な共同体が不可欠で、想像の共同体を心の中に想像せしめることを可能にしているメディアは、国民に共有される記憶をどのように形成してきたのか、日本の戦後の文化政策、テレビ、映画における植民地支配と戦争に関するドラマやドキュメンタリーのあり方を分析しつつ、それを欧州との比較、それにアジアの中国韓国と比較した。加害の責任に向き合うような作品が1950年代から60年代にかけて存在したが、７０年代に大きな転換点があったこと、植民地的記憶を考える必要が、欧州と異なる文脈で求められていることが提示された。

研究成果の学術的意義や社会的意義
複数の国民に関わる歴史的な事象を報道するに際しては、メディアにも正確さ、誠実さの上に、「異論を唱える人々とも相互に承認し合」ってケアする態度が要求される。その上で「人種的民族的偏りや代表性、描かれ方における偏見」に注意し「世界認識の多元性を反映」させるために、日本が何をいかに配慮すべきかを考える材料を提供した。
　集団内部で暗黙の内に共有されている無意識の記憶や感情が、今や意識の世界における国内外の政治的紛争と深く関わる構図も提示した。歴史の記憶をめぐっては、人権という規範に対抗して、豊かさや発展に関する記憶が登場して、対抗的な文化が展開されているという図式を提示し、知的対話の基礎とした。

研究成果の概要（英文）：In order for democracy to actually function as an system, a huge community of "people" or "nation" as the subject of democracy is indispensable. How has the media, which enables us to imagine an imaginary national community in our minds, shaped the memory shared by the people, and Japan's cultural policy in the postwar period? By analyzing dramas and documentaries on colonial rule and war on television and film, and comparing them with those in Europe and with those in China and Korea, it was suggested that a major turning point occurred in the 1970s, and that colonial rule itself needs to be considered in a different context than in Europe.

研究分野：政治学

キーワード：メディア　記憶　植民地　映画　ドキュメンタリー　文化交流　アイデンティティー　和解

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

「和解学」の着想は、領域代表者個人の 20 年以上に及ぶ歴史学研究の経験と、ウィルソンセンターで接した紛争解決学、そして早稲田大学に赴任後に出会った移行期正義の回復を目指す試みが融合されることで生まれた。仮説として、メディアが担っている社会的役割とは、かつて各政府が中心となって国益やパワーの次元での「妥協」に近いものとして実現した「政府間和解」の枠組みを、市民間和解と対話させ、記憶や価値の相互認知・社会の相互進化と結びついた「国民間和解」へとつなげていくことなのではないかという問題意識を設定した。この仮説のもとで、本計画研究班は、新領域としての和解学創成プロジェクトの重要な一環として組織された。国民が想像されているように、国民間での和解が想像されていくという未来を生み出すにあたり、現在、メディアは国民の記憶を生み出し、維持するにあたり、いかなる社会的役割を担いっているのか、また、過去において担ってきたのか、「想起する文化」としての表象の歴史、その実証的分析、そして欧州とアジアとの比較が大きなテーマとなった。

２．研究の目的

メディアが戦後日本社会において、いかに戦争や植民地支配に関係する記憶と対峙してきたのかを解明するとともに、メディアが歴史記憶の問題において機能している様子を、近隣の中国・韓国と比較し、さらに東アジア全体をヨーロッパと比較することで、日本的、もしくはアジア的な特徴を考察した。戦後日本においては、かつて東アジアで繰り広げられた戦争と日本の植民地支配をめぐる歴史的な過去が、メディアによって、いかに国民的記憶へと転換され、再生産され、語り直され、国民に受容されたのかを論じることが当面の焦点とされた。

３．研究の方法

オンラインによる会議で分担者や研究協力者と頻繁に共同研究会を持った。オンラインにてアジアとの交流に熱心に取り組んできたメディア関係者を招待し、「日韓ドラマ共同制作の時代-その遺産から見る日本の現状」（2021 年 6 月）「日本ドラマ再活性化に向けた法体制を目指して」（同年 7 月）等をオンラインで開催した。日本放送作家協会の理事長や日本ドラマ連盟理事を招待して、テレシネマ 7 に象徴される日韓ドラマ共同制作の背景とその後の展開を取材した。こうしたオンライン会議に関連する設備を拡充させた。

コロナで遅延した作業としては、8 月ジャーナリズム以外に、キネマ旬報などを中心とした、ドキュメンタリー映画、娯楽映画のデータベースを構築する作業を行った。戦後日本の文化的記憶の展開の先に、東アジアで展開された戦争と植民地支配について、どのような映画作品やドキュメンタリー番組等が制作され、大衆メディアによって国民的記憶へと転換され、再生産され、語り直され、国民に受容されたのかを分析するための基礎的資料とすべく、『キネマ旬報』でとりあげられた、戦争と植民地支配に関する映画のデータベースを加藤・中山が完成させネットで公開した。

俳優の小木戸利光のインタービューを活字化した。長崎の原爆をテーマとして NHK でも取り上げられた地方作品に出演した俳優であり、その他にも個人的な想いを持って戦争関連の作品に出演してきた俳優であるため、その想いを聞き取った。戦争の記憶に関連した映画がいかに製作されているのかの一端も明らかになった。

メディア史は 1990 年代に勃興したが、土屋礼子は 2018 年『メディア史年表』を完成させた延長に、和解に向けたメディアの倫理を考察し、和解学叢書第一巻にまとめた。テレビのドキュメンタリー番組における戦争の体験・記憶の表象については、米倉律が戦後を特集した「8 月もの」テレビ番組を分析し、著書にまとめて刊行した。戦後 40 年から 70 年にかけ、節目の年を中心に日本でも戦争体験・記憶をどう継承するかが社会的課題となり、テレビ各

局も 8 月に「継承」をテーマにしたドキュメンタリー番組を数多く編成したこと、しかし番組で継承の対象とされた戦争体験・記憶は、被害者の「体験・記憶」に極端に偏っており、日本によるアジアへの侵略や残虐行為が殆ど扱われず国内の反発も強くなっていったことが明らかになった。

映像を専門にするテレビドラマ連盟、および脚本を手掛ける放送作家協会で要職を務める方からの協力を得て、アジア映画祭の系譜についてインタビューを行った。放送作家協会の理事長との「和カフェ」というオンラインサロンや、国際和解映画祭を学生とともに共催する形で、学問的問題意識をもちながら社会への実践的活動にも参加した。

A05 市民運動班とも連携して「生きた文化」としての記憶や感情を考える契機として、インタビュー相手の選定や関連学問研究者とのネットワークを拡大させ、その途上で「国民的記憶と和解に向けたメディアの可能性」というシンポジウムを開催した。日本統治下の朝鮮映画と、広島被爆者に関するドキュメンタリー制作過程を題材に、国民の歴史記憶形成過程でメディアが果たした役割を再検討し、銀盤の上に残された映像が異なる国民となった日韓相互の国民的記憶のズレを埋める可能性や条件を議論した。

「戦後」という歴史的な時代における、日本の文化一般をめぐる政治の流れ、そして特に映画とドキュメンタリーの動向について、前述のデータベースを使いながら、大きな枠組みが研究される一方で、現代の日本と韓国、中国の映像作品における戦争と植民地記憶のあり方を中心に、アジア的な規模で比較した。さらに、現代日本におけるテレビ番組中で、戦争と植民地表象がどのように論じられているのかについて、ヨーロッパにおける記憶文化との比較、そして和解めぐる相互作用を、価値としての人権や地域的アイデンティティと関係させて議論した。

和解学叢書第一巻の浅野豊美・土屋礼子の論文を踏まえ、以下のような論文がまず完成された。『“ホロコースト・ドキュメンタリー”――記憶と和解」（武井）、「戦争・植民地映画と＜和解＞―戦後キネマ旬報ベスト・テン作品から」（加藤）、「テレビの「八月ジャーナリズム」におけるアジアの表象～放送メディアに媒介される“和解”の契機と課題～」（米倉）、「NHK スペシャル 30 年における〈和解〉」（中山）である。

議論を通じて、メディアによって、さまざまに意味付けされた記憶が安易に政治利用され、また、さまざまな意図を持った政治主体が参入することによって、国内政治と国際政治の壁が相互浸透して、現代の世界の混迷が加速していることが明らかにされた。各国の国益推進を目的にナショナリズムを安易に政治利用させない仕組みを、国際的な知的連携によって構築していくためにも、想像の共同体を構成している要素としての歴史的記憶が、メディアを通じてある意図を持って再生され変質していく過程に目を向ける必要があることが認識された。

４．研究成果

NHK と民放の終戦ドキュメンタリー、戦後という時代に作られた自主上映映画、歌謡、ドラマ・小説などの表象を材料とした研究によって、集合的記憶の表象の分野においても、和解の芽と呼ぶに値する交流が存在していたことが明らかとなった。和解の芽は 1960 年代の在日や引揚体験をテーマとする映画の興隆や、ディレクターや監督が中心となって今も続くアジアドラマカンファレンスの開催に象徴される。しかし、そうした芽の存在にもかかわらず、国民の記憶の主流は被害者の記憶に訴えるものへ収斂され、国民感情に結ばれた深い和解を作り出さなかったことが、1970 年代以後にこうした「芽」が消滅した動向とともに示された。1972 年以後にメディアが作り出した日中間でのパンダブームに象徴されるような、知的和解なき国民的和解のムードも、知的和解がなかったが故に長続きはしなかったものと推測される。

知的和解を国民的和解に結びつけるために重要なのが、テレビドキュメンタリーに象徴されるメディアの役割、および映画や小説などのフィクションを通じた感情レベルの国民的交流であったことも議論された。日本のテレビ各局も 8 月に「継承」をテーマにしたドキュメンタリー番組を数多く編成したが、継承の対象とされた戦争体験・記憶は、被害者

の「体験・記憶」に極端に偏っており、しかもそれは豊かさの損なわれた時代という文脈に組み込まれていたがゆえに、日本によるアジアへの侵略や残虐行為は殆ど扱われえず、1990 年代に加害をテーマとして製作された作品や、女性の尊厳を掲げつつ市民的和解をめざす運動に対しては、国内の反発も強くなっていったことが明らかにされた。しかし、影に隠れて顧みられることの少なかった広島、長崎、沖縄など各地域のローカル民放局については、当事者、関係者の証言を収集し、地域の多様性を反映してその放送内容も多様であり、地域に根付いた戦争やアジア諸国との関係性を焦点に中央とは異なるオルタナティブな視点が存在していることも他方で指摘された。

アライダ・アスマンのいう「文化的記憶」の観点から見れば、ヨーロッパにおける地域の記憶に根付いたホロコーストの記憶と人権という価値に比較して、東アジアでは各国が経済発展に成功したことによって、国内における民主化以前の権威主義を支えた保守勢力が、対抗する「文化的記憶」を掲げたことが、国民内での分裂と、国民間での激しい歴史問題の発生に繋がっていることが明らかにされた。対抗する保守の側の文化的記憶として選び取られた記憶は、貧困からの脱出に由来する「豊かさ」や「平和」という社会全体の発展や秩序と結びついた価値と一体となったものである。個々の人権や尊厳と、全体の発展や秩序とが対抗する力学が生まれ、国内及び国際間で激しい歴史問題が生じるようになったことが指摘された。民主化後のアジアにおいて、国民がダイナミックに変化していく過程として、メディアを考察する必要性が改めて認識された。

「政府間和解」の枠組みが、市民間和解と結びついて、記憶や価値の相互認知・社会の相互進化と親和的な「国民間和解」へ向かうためには、メディアのモラルや・倫理・規範の領域にも踏み込みながら、国際的な議論の場が必要であること、それこそが「和解の想像」を可能とする条件の一部となることが意識された。

最後に、和解学叢書の第六巻としてまとめられた「あとがき」と重なるが、現代的なナショナリズムの濫用の問題にも、このプロジェクトのテーマは深く関係している。

現在、全世界的な問題として展開している現象は、ナショナリズムの政治利用が制御不可能な状態にあるという問題である。アメリカの国内政治におけるトランプ現象とヨーロッパ主要国における右派政党の拡大、そしてロシアにおける歴史に依拠したウクライナ戦争の正当化、中国における歴史の独占による党独裁体制の正当化という現象の背後には、歴史の政治利用という現象が共通して存在している。

「歴史の終焉」は、まさに資料に依拠しつつ、研究史を踏まえて展開されるという意味の専門家による歴史の終焉を意味していた。このことは、分担者の武井彩花氏が、その著書で指摘している 。歴史の終焉は、大衆に向けられる分かりやすい語り（それも「歴史」と呼ばれる）が政治的正統性と結びついて、大衆の感情に訴えるポピュリズム現象の深化と対をなす。

歴史が新しい段階に入っていることは、かつて高坂正堯が「原水爆の出現は新しい原理に基づく国際社会を必要ならしめた」とする指摘を行ったことにさえ通じている。ウクライナ戦争がウラン弾使用を契機として原爆使用をチラつかせる局面に入ったことは、国益やパワーという論理を十分に踏まえながらも、国民の記憶によって生み出されるナショナリズムを相互に進化させられるような深い対話が必要な時代に、我々がすでに入っていることを警告しているように思われる。

和解は妥協とは異なる。外交はある種の妥協であり、妥協は主体を変化させないで行われる利益の取引である。それに対して、真の意味での国際和解は、主体としてのネーション・国民の相互変容を伴うものである。本プロジェクトは、こうした視点に立って、相互に変容することの難しさや、それを捉えること自体の困難さに直面し、苦悩した成果である。

メディアを舞台として、さまざまに意味付けされた記憶が安易に政治利用され、また、さまざまな意図を持った政治主体がメディアを操作する時代に我々は生きている。国内政治と国際政治の壁は相互浸透を始め、現代の世界の混迷は加速しているが、各国の国益推

進を目的にナショナリズムを安易に政治利用させない仕組みを、国際的な知的連携によって構築していくことが必要な時代に我々は生きている。

メディアを安易なプロパガンダとして利用させないためという規範的な理由を意識しながら、想像の共同体を構成している要素としての歴史的記憶が、メディアを通じてある意図を持って再生され変質していく過程を我々は、国際的に共同で認識する必要がある。その上で、国民間の深い対話を国際政治に織り込みながら、展開する時代に差し掛かっていることを認識するべきであろう。妥協として国益を「手打ち」するだけでは、真の和解ではない。

妥協としての和解ではなく、互いの社会が無意識のうちに変容していく可能性に開かれた、対話継続のための知的インフラこそ、国際和解学である。妥協としての「和解」に反対し、正義を優先せんとする市民運動も、国民という社会を進化させるために重要な役割を果たすが、それだけでは十分ではない。市民の生活の基盤を支えるのは、国民という社会である。それは外交や国民的メディアと無関係ではない。それらは国民に共有される感情と、それを支える記憶と価値の融合体と、政治的正統性や文化的コミュニケーションの基盤という点で、深い関係を持っている。人間を感情的に動かしている要素としての共有された記憶と価値を意識し、外交やメディア当局、そして市民も交えた対話によってこそ、未知の言語化できない、新たな文化創造を伴う相互的変容と、新関係への扉は開かれよう。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計63件（うち査読付論文　13件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　3件）

１．著者名 中山大将	４．巻 1
２．論文標題 書評　川喜田敦子著『東欧からのドイツ人の「追放」：20世紀の住民移動の歴史のなかで』	５．発行年 2021年
３．雑誌名 『境界研究』	６．最初と最後の頁 1
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 武井彩佳	４．巻 853
２．論文標題 「ホロコースト否定論の短い『歴史』」	５．発行年 2021年
３．雑誌名 『歴史評論』	６．最初と最後の頁 1
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 成田 龍一	４．巻 50-13
２．論文標題 「森崎和江の出発――「戦後」を突き抜ける思想」	５．発行年 2022年
３．雑誌名 『現代思想』	６．最初と最後の頁 111－127
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 成田 龍一	４．巻 1021
２．論文標題 「「歴史総合」実践の前夜に――いくつかの論点」	５．発行年 2022年
３．雑誌名 『歴史学研究』	６．最初と最後の頁 50－56
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 土屋　礼子	４．巻 21
２．論文標題 占領期の時局雑誌	５．発行年 2021年
３．雑誌名 『Intelligence』	６．最初と最後の頁 60-72
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 Reiko TSUCHIYA	４．巻 36
２．論文標題 Book Review「Brill Asian Studies Primary Sources Online」	５．発行年 2022年
３．雑誌名 Japan Review	６．最初と最後の頁 196-199
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.15055/00007786	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 土屋礼子	４．巻 22
２．論文標題 大正期の国際的新聞大会にみるメディアと帝国主義	５．発行年 2022年
３．雑誌名 『Intelligence』	６．最初と最後の頁 84-95
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 丁智恵	４．巻 726
２．論文標題 論点	５．発行年 2022年
３．雑誌名 『東アジアと朝鮮戦争七〇年：メディア・思想・日本 』明石書店	６．最初と最後の頁 308-319
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 丁智恵	4．巻 726
2．論文標題 第4章	5．発行年 2022年
3．雑誌名 『帝国のはざまを生きる：交錯する国境、人の移動、アイデンティティ』みずき書林	6．最初と最後の頁 181-213
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 丁智恵	4．巻 -
2．論文標題 「アジアの戦争被害」	5．発行年 2021年
3．雑誌名 『NNNドキュメント・クロニクル ： 1970-2019』東京大学出版会	6．最初と最後の頁 243-254
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 土屋礼子	4．巻 252
2．論文標題 「ニュースの誕生とニュースという知」	5．発行年 2022年
3．雑誌名 『入門メディア社会学』ミネルヴァ書房	6．最初と最後の頁 20-38
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 土屋礼子	4．巻 475
2．論文標題 「朝鮮戦争における宣伝ビラ」	5．発行年 2022年
3．雑誌名 『東アジアと朝鮮戦争七〇年　メディア・思想・日本』明石書店	6．最初と最後の頁 153-187
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 土屋礼子	4．巻 318
2．論文標題 「『有喜世新聞』と『改進新聞』にみる明治期の小新聞と政党機関紙」	5．発行年 2023年
3．雑誌名 『明治維新と大衆文化』思文閣出版	6．最初と最後の頁 131-155
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 中山大将	4．巻 26
2．論文標題 『現代東アジアにおいて＜トランスナショナル＞を問うことの意義	5．発行年 2020年
3．雑誌名 『移民研究年報』	6．最初と最後の頁 1
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 小菅信子	4．巻 87
2．論文標題 Japan towards reconciliation: the case of Anglo-Japanese reconciliation	5．発行年 2020年
3．雑誌名 山梨学院大学『法学論集』	6．最初と最後の頁 1
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 小菅信子	4．巻 223
2．論文標題 書評　黒沢文貴氏『歴史に向き合う』	5．発行年 2020年
3．雑誌名 『軍事史学会』	6．最初と最後の頁 1
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 米倉律	4．巻 57
2．論文標題 冷戦下の『反核・平和主義』と『加害』の前景化―1980年代におけるテレビの『八月ジャーナリズム』	5．発行年 2020年
3．雑誌名 『政経研究』	6．最初と最後の頁 1
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 成田龍一	4．巻 913
2．論文標題 いま、コロナウイルス禍の中で――社会史研究の成果に学ぶ	5．発行年 2020年
3．雑誌名 『歴史地理教育』	6．最初と最後の頁 54－59
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 浅野 豊美	4．巻 3
2．論文標題 日韓における内外政治構造の共振と対話の土台 ： 和解学の観点から（特集 「徴用工判決」後の日韓関係）	5．発行年 2020年
3．雑誌名 エトランデュテ ： 在日本法律家協会会報	6．最初と最後の頁 173-199
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 浅野 豊美	4．巻 92
2．論文標題 朝河貫一の一九四六年秋 憲法第九条改正論 ： 「神聖な武力」への反省を刻んだ自由追求のために	5．発行年 2020年
3．雑誌名 アステイオン = Αστειον	6．最初と最後の頁 163-179
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 浅野 豊美	4．巻 356
2．論文標題 「国民感情」摩擦を深い対話の好機へ 韓国国会議長提案と和解学の必要性（特集 2020 時代を読み解く）	5．発行年 2020年
3．雑誌名 Journalism	6．最初と最後の頁 56-62
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 成田 龍一	4．巻 913
2．論文標題 「いま、コロナウイルス禍の中で――社会史研究の成果に学ぶ」	5．発行年 2020年
3．雑誌名 『歴史地理教育』	6．最初と最後の頁 54-59
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 浅野 豊美	4．巻 (21)
2．論文標題 東アジアにおける和解学の方向性 ： 民主主義と国民感情、歴史記憶、そして人権（特集 和解三原則[正義の複数性・国民感情への敬意・プロセス重視]の提唱）	5．発行年 2019年
3．雑誌名 ワセダアジアレビュー	6．最初と最後の頁 102-104
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 中山大将	4．巻 (31)
2．論文標題 境界地域史研究資料統合活用計画：研究者個々人が作成した未公開の資料目録の活用に向けて	5．発行年 2019年
3．雑誌名 近現代東北アジア地域史研究会　NEWS LETTER	6．最初と最後の頁 127-130
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 中山大将	4．巻 (25)
2．論文標題 書評　今西一・飯塚一幸編『帝国日本の移動と動員』	5．発行年 2019年
3．雑誌名 日本移民研究年報	6．最初と最後の頁 158
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 小菅信子	4．巻 65
2．論文標題 書評「『＜和解のリアルポリティクスードイツ_とユダヤ_』（みすず書房、2017年）	5．発行年 2019年
3．雑誌名 『現代史研究』	6．最初と最後の頁 77-83
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 小菅信子	4．巻 854
2．論文標題 書評『「盧溝橋事件記念_」をめぐる_本と中国ーー政治的語りに観る_中戦争像の_較研 究』（_阪_学出版会、2018年）	5．発行年 2019年
3．雑誌名 『_本歴史』	6．最初と最後の頁 104-106
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 米倉律	4．巻 (13)
2．論文標題 「戦争加害」という主題の形成―1970年代におけるテレビの「8月ジャーナリズム」を中心に―	5．発行年 2019年
3．雑誌名 『ジャーナリズム＆メディア』	6．最初と最後の頁 209－225
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 米倉律	4．巻 56(1)
2．論文標題 「八月ジャーナリズム」の形成――終戦期～一九五〇年代におけるラジオ、新聞による戦争関連報道の展開――	5．発行年 2019年
3．雑誌名 『政経研究』	6．最初と最後の頁 1－43
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 武井彩佳	4．巻 27
2．論文標題 抵抗はどこまで可能だったのか―その現実と戦後の解釈―	5．発行年 2019年
3．雑誌名 南山大学ヨーロッパ研究センター報	6．最初と最後の頁 39－52
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 青山瑠妙	4．巻 49
2．論文標題 「中朝の『伝統的友好』は復活するか」	5．発行年 2018年
3．雑誌名 『外交』	6．最初と最後の頁 50－55
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 青山瑠妙	4．巻 297
2．論文標題 「中国への関与政策は失敗したのか：中国と米国、EUそして日本」	5．発行年 2018年
3．雑誌名 『日中経協ジャーナル』	6．最初と最後の頁 10－12
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 青山瑠妙	４．巻 3（1）
２．論文標題 「ハイテク冷戦下の日中関係」	５．発行年 2019年
３．雑誌名 『日本與亜太研究』	６．最初と最後の頁 206－215
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 武井彩佳	４．巻 90
２．論文標題 「ドイツの歴史教育を支えるものー修正主義の排除と「生きた」歴史」	５．発行年 2018年
３．雑誌名 『神奈川大学評論』	６．最初と最後の頁 72-79
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 土屋礼子	４．巻 19
２．論文標題 「日中戦争期のアジアにおける英国の対外宣伝とプレスアタッシェ」	５．発行年 2019年
３．雑誌名 『Intelligence』	６．最初と最後の頁 116－127
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 土屋礼子	４．巻 803
２．論文標題 「『メディア史年表』の目指すところ－文化・産業面も複合的に捉える」	５．発行年 2019年
３．雑誌名 『新聞研究』	６．最初と最後の頁 52－55
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 丁智慧	4．巻 24
2．論文標題 テレビドラマ『口笛は冬の空に』（NHK:1961）に描かれた小松川事件と北朝鮮帰国事業　植民地的記憶の「周縁化」に抗う痕跡	5．発行年 2018年
3．雑誌名 東京工芸大学芸術学部紀要「芸術世界」	6．最初と最後の頁 11－21
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 中山大将	4．巻 11
2．論文標題 「樺太のエスニック・マイノリティと農林資源：日本領サハリン島南部多数エスニック社会の農業社会史研究」	5．発行年 2018年
3．雑誌名 『北海道・東北史研究』	6．最初と最後の頁 77-90
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 中山大将	4．巻 20
2．論文標題 「台湾と樺太における日本帝国外地農業試験研究機関の比較研究」	5．発行年 2018年
3．雑誌名 『日本台湾学会報』	6．最初と最後の頁 45－66
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 中山大将	4．巻 11
2．論文標題 「サハリン樺太史研究会第41回例会　樺太の〈戦後〉史研究の到達点と課題」	5．発行年 2018年
3．雑誌名 『北海道・東北史研究』	6．最初と最後の頁 108－119
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 成田龍一	4．巻 14
2．論文標題 「戦争と性暴力をめぐること、二つ、三つ」	5．発行年 2018年
3．雑誌名 『ジェンダー史学』	6．最初と最後の頁 107－118
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 成田龍一	4．巻 26
2．論文標題 「半世紀後に読む「天皇の世紀」―大佛次郎の明治維新像」	5．発行年 2018年
3．雑誌名 『おさらぎ選書』	6．最初と最後の頁 15－49
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 成田龍一	4．巻 717
2．論文標題 「世界の視点から見る「戦後日本史」の考え方・学び方」	5．発行年 2019年
3．雑誌名 『社会科教育』	6．最初と最後の頁 54－57
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 浅野豊美	4．巻 102
2．論文標題 「書評　橋本伸也『記憶の政治』（岩波書店、2016年）」	5．発行年 2018年
3．雑誌名 『ロシア史研究』	6．最初と最後の頁 104-109
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 木村幹	4．巻 25
2．論文標題 「慰安婦言説の転換点：千田夏光『従軍慰安婦』を中心に」	5．発行年 2018年
3．雑誌名 『国際協力論集』	6．最初と最後の頁 33－58
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 木村幹	4．巻 25（1）
2．論文標題 「日本における慰安婦認識：1970年代以前の状況を中心に」	5．発行年 2017年
3．雑誌名 『国際協力論集』	6．最初と最後の頁 23－46
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 木村幹	4．巻 21
2．論文標題 「日清戦争の再発見 ： 中国台頭が与える韓国の言説変化」	5．発行年 2017年
3．雑誌名 『東アジア近代史』	6．最初と最後の頁 17－36
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 木村幹	4．巻 96（3）
2．論文標題 「慰安婦合意反故　『韓国という病』」	5．発行年 2018年
3．雑誌名 『文芸春秋』	6．最初と最後の頁 106－114
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 木村幹	4．巻 2017年5月20日号
2．論文標題 「当たり外れがなくポピュリストでもない普通の大統領（特集 9 年ぶりの政権交代 文在寅の韓国)--(Interview 韓国文政権はこう動く!!)」	5．発行年 2017年
3．雑誌名 『週刊東洋経済』	6．最初と最後の頁 86－87
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 木村幹	4．巻 2017（3）
2．論文標題 「朴槿恵罷免後の韓国」	5．発行年 2017年
3．雑誌名 『学士会会報』	6．最初と最後の頁 44－47
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 木村幹	4．巻 23
2．論文標題 「日韓関係・慰安婦問題は韓国大統領選の争点とはならない（セミナー報告プラス 動揺する国際情勢と韓国/北朝鮮の選択)」	5．発行年 2017年
3．雑誌名 『東アジア経済情報』	6．最初と最後の頁 7－10
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 木村幹	4．巻 11（2）
2．論文標題 「朴槿恵大統領弾劾 二〇一六年 韓国大統領はなぜ悲惨な末路を迎えるのか（教科書では教えない 入門新世界史)--(教科書に載っていない世界史 14)」	5．発行年 2017年
3．雑誌名 『文藝春秋 special』	6．最初と最後の頁 115－122
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 平川幸子	４．巻 46（3）
２．論文標題 「アジア太平洋のリベラルな地域秩序―ASEANと台湾に光を」	５．発行年 2017年
３．雑誌名 『問題と研究』	６．最初と最後の頁 33－63
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 平川幸子	４．巻 30
２．論文標題 「中国のエネルギー政策と地域主義外交－「一帯一路」のモデルとしての中央アジア」	５．発行年 2018年
３．雑誌名 『アジア太平洋討究』	６．最初と最後の頁 89－101
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 加藤恵美	４．巻 41
２．論文標題 「移動する中国朝鮮族のアイデンティティ：東アジアの人びとの共生に向けて」	５．発行年 2017年
３．雑誌名 『成蹊大学アジア太平洋研究』	６．最初と最後の頁 179－187
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 加藤恵美	４．巻 15
２．論文標題 「国際文化学としてのヒトの国際移動研究」	５．発行年 2017年
３．雑誌名 『日本国際文化学会年報インターカルチュラル』	６．最初と最後の頁 151－161
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 米倉律	4．巻 54（3）
2．論文標題 「テレビにおける「八月ジャーナリズム」の歴史的展開 ―ドキュメンタリー番組の編成の変遷を中心に―」	5．発行年 2017年
3．雑誌名 『政経研究』	6．最初と最後の頁 35－76
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 米倉律	4．巻 54（4）
2．論文標題 「戦争体験・記憶」の継承をめぐるポリティクス ―“戦後七〇年”関連テレビ番組の内容分析を中心に―」	5．発行年 2018年
3．雑誌名 『政経研究』	6．最初と最後の頁 51－79
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 小林聡明	4．巻 54（2）
2．論文標題 「アジア太平洋地域における戦時情報局（OWI）プロパガンダ・ラジオ― 朝鮮語放送の実態解明に向けた基礎的分析」	5．発行年 2017年
3．雑誌名 『政経研究』	6．最初と最後の頁 1－35
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 小林聡明	4．巻 11
2．論文標題 「巻頭言」	5．発行年 2018年
3．雑誌名 『ジャーナリズム＆メディア』	6．最初と最後の頁 7－8
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 小林聡明	4．巻 11
2．論文標題 「GHQ 占領期日本のジャーナリズム教育とモット博士：1947 年3 ～4月―日本人教授らとの学術交流を中心に―」	5．発行年 2018年
3．雑誌名 『ジャーナリズム＆メディア』	6．最初と最後の頁 33－51
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 小林聡明	4．巻 11
2．論文標題 「韓国の言論学研究の動向」	5．発行年 2018年
3．雑誌名 『ジャーナリズム＆メディア』	6．最初と最後の頁 277－289
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 浅野豊美	4．巻 第２９巻３号
2．論文標題 「引き揚げ文化論の可能性と意義―帝国史とトランスナショナル・ヒストリーの視点から」	5．発行年 2018年
3．雑誌名 『立命館言語文化研究』	6．最初と最後の頁 67－73
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計98件（うち招待講演　17件／うち国際学会　23件）

1．発表者名 土屋礼子
2．発表標題 大正期の国際新聞大会にみるメディアと帝国主義
3．学会等名 早稲田大学20世紀メディア研究所主催第149回20世紀メディア研究会　（オンライン）
4．発表年 2021年～2022年

１．発表者名 Reiko Tsuchiya
２．発表標題 “Media and imperialism in international press conferences before WWII”
３．学会等名 CIRN Project: Competing Imperialisms in Northeast Asia: New Perspectives,（国際学会）
４．発表年 2021年～2022年

１．発表者名 Toyomi Asano
２．発表標題 “Resonance between domestic politics and international politics and historical reconciliation centering around the gap of democracy and nation-building between Japan and South Korea ”
３．学会等名 韓国政治学会、韓日交流パネル　2021年12月4日（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2021年～2022年

１．発表者名 浅野豊美
２．発表標題 国民国家形成の断層をめぐる内外政治の共振と歴史和解;日韓関係を例に
３．学会等名 日本国際政治学会、部会13、歴史認識;記憶;和解の可能性と国際関係　2021年10月31日
４．発表年 2021年～2022年

１．発表者名 Toyomi Asano
２．発表標題 Introduction for “Waseda Center for Reconciliation Studies” And the Kankenhi project for creation of Reconciliation Studies
３．学会等名 国際和解学会: International Association for Reconciliation Studies, AUG 5-7, 2021
４．発表年 2021年～2022年

１．発表者名 Reiko Tsuchiya
２．発表標題 "Propaganda Leaflets against the Japanese by the Allies: Insight, Revelations and Japanese American Contributors	Fanning the Flames Speaker Series"
３．学会等名 Hoover Institute &Archives, Stanford University　(Online)（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2021年～2022年

１．発表者名 Toyomi Asano
２．発表標題 Pursuing Reconciliation Between Democratized and Industrialized Nations ---overcoming “political resonance” and the “disjunctures” of shared memories and values in the case of Japan-South Korea Relations-
３．学会等名 A workshop,“The Structure and Dynamics of National Memories, Conflicting Values and Reconciliation in the History of East Asia,” 2022年4月29日Harvard Yenching Institute
４．発表年 2022年

１．発表者名 小菅信子
２．発表標題 日本的浪漫文化的交流政策与隣接著作権的諸課題
３．学会等名 山梨学院大学法学部×南開大学法学院　共同開催（国際学会）
４．発表年 2021年～2022年

１．発表者名 丁智恵
２．発表標題 被植民者の形象をみるー戦前から戦後の断絶と継承
３．学会等名 日本映像学会第48回大会
４．発表年 2022年

１．発表者名 Emi Kato
２．発表標題 Citizens’ Movement for Postwar Compensation to and the Rights of Koreans Residing in Japan
３．学会等名 Workshop: THE Development of Reconciliation Studies in East Asia（国際学会）
４．発表年 2020年～2021年

１．発表者名 Enmin Li
２．発表標題 How Difficult it is to the road of Sino-Japanese Historical Reconciliation
３．学会等名 Workshop: THE Development of Reconciliation Studies in East Asia
４．発表年 2020年～2021年

１．発表者名 Ayaka Takei
２．発表標題 The Holocaust in the Documentary Films: Between Memory and Reconciliation
３．学会等名 Workshop: THE Development of Reconciliation Studies in East Asia
４．発表年 2020年～2021年

１．発表者名 Bin Huang
２．発表標題 Multifaceted Chinese Government Affiliated Mass Media: Focusing on Changes in Ｔｈｅ People‘s Daily Coverage of The Japanese Prime Minister’s Visit to Yasukuni Shrine
３．学会等名 Workshop: THE Development of Reconciliation Studies in East Asia
４．発表年 2020年～2021年

１．発表者名 Nagisa Kizuki
２．発表標題 The Repatriation from Sakhalin and the Nationalities: Focusing on the Case of Remaining Korean in Sakhalin
３．学会等名 Workshop: THE Development of Reconciliation Studies in East Asia
４．発表年 2020年～2021年

１．発表者名 Yukie Sato
２．発表標題 Transitional Justice in Unfinished Transition: Contending with the Past in South Korea
３．学会等名 Workshop: THE Development of Reconciliation Studies in East Asia
４．発表年 2020年～2021年

１．発表者名 丁智恵
２．発表標題 朝鮮戦争報道と占領期日本ー映像メディアの分析を中心にー
３．学会等名 国際日本文化研究センター 第54回 国際研究集会「帝国のはざまを生きる」国際日本文化研究センター（国際学会）
４．発表年 2020年

１．発表者名 Jihye CHUNG
２．発表標題 Representation of the Korean War in Japanese Moving Images
３．学会等名 AAS(Association for Asian Studies) in Asia Conference
４．発表年 2020年

１．発表者名 土屋礼子
２．発表標題 プロパガンダ研究と宣伝ビラ
３．学会等名 早大現代政治経済研究所「メディアと外交」研究部会
４．発表年 2020年

１．発表者名 土屋礼子
２．発表標題 近代日本のジャーナリズムにおける大衆化／民衆化
３．学会等名 東アジア藝文書院・ジャーナリズム研究会第四回研究会
４．発表年 2020年

１．発表者名 土屋礼子
２．発表標題 朝鮮戦争における宣伝ビラについて
３．学会等名 早稲田大学20世紀メディア研究所主催第137回20世紀メディア研究会（オンライン開催）
４．発表年 2020年

１．発表者名 Toyomi Asano
２．発表標題 "Theory and structure of the connection between nationalism and memories, including a resonance between domestic politics and international politics"
３．学会等名 AAS, the panel title: “Democratization, Nationalism, and Reconciliation in East Asia: Challenges to Reconciliation Study” _2021年3月27日（国際学会）
４．発表年 2020年～2021年

１．発表者名 Toyomi Asano
２．発表標題 “Nationalism, Democratization, and Reconciliation ”
３．学会等名 Workshop: THE Development of Reconciliation Studies in East Asia, March 4-6, 2021_（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2020年～2021年

１．発表者名 中山大将
２．発表標題 住民から見た日本領樺太の形成と解体
３．学会等名 2・8独立宣言100周年、日韓未来100年と南北協力のための政策提案フォーラム,主管：2・8独立宣言100周年記念事業委員会、東北アジア歴史財団（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 中山大将
２．発表標題 Experimental Activities of SCES and Private Companies: A Comparison with Taiwan and Hokkaido under the Japanese Empire
３．学会等名 The Fifth Biennial Conference of East Asian Environmental History (EAEH 2019),National Cheng Kung University, Tainan, Taiwan（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 中山大将
２．発表標題 Border Shifting and People in Russo-Japanese Borderlands: Sakhalin/Karafuto and Kuril/Chishima
３．学会等名 Competing Imperialisms in Northeast Asia: Concepts and Approaches, Opening Conference, Competing Imperialisms Research Network (CIRN1),,Waseda University（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 中山大将
２．発表標題 現代東アジアにおいて〈トランスナショナル〉を問うことの意義：『日本人と海外移住』を起点にして
３．学会等名 日本移民学会2019年度大会シンポジウム「移民と_トランスナショナル_：日本における移民研究の再考」,天理大学
４．発表年 2019年

１．発表者名 中山大将
２．発表標題 境界地域史研究資料統合活用計画：歴史研究者自身による個人目録のデータベース化とWeb公開
３．学会等名 第27回日本植民地研究会全国研究大会自由論題報告,立教大学
４．発表年 2019年

１．発表者名 Reiko Tsuchiya
２．発表標題 “Media between Imperialism and Nationalism in Northeast Asia”
３．学会等名 Competing Imperialisms in Northeast Asia: Contested Histories and Histories of Contestation at Queen's University of Belfast, UK（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Reiko Tsuchiya
２．発表標題 “Competing propaganda in Asia by UK and Japan: Media between nationalism and imperialism, 1926-1945”
３．学会等名 Competing imperialisms in Northeast Asia: Concepts and approach,at Waseda University, Tokyo,Japan
４．発表年 2019年

１．発表者名 李海燕
２．発表標題 「中国の現代映像作品にみる戦時中「日本」表象の変遷」、2019年6月15日。
３．学会等名 日本現代中国学会西日本部会研究集会
４．発表年 2019年

１．発表者名 加藤恵美
２．発表標題 「多文化が共生する社会は誰の社会か：川崎市ふれあい館の事例から」
３．学会等名 日本国際政治学会大会
４．発表年 2019年

１．発表者名 浅野豊美
２．発表標題 National memories and norms in international politics in East Asia
３．学会等名 Daiwa Foundation Japan House 2019年11月15日（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Toyomi Asano
２．発表標題 War, Myself, and Reconciliation
３．学会等名 Stichting Dialoog Nederland-Japan-Indonesia 2019年7月6日（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 土屋礼子
２．発表標題 「太平洋戦争における対日心理戦と宣伝ビラ」
３．学会等名 ケンブリッジ日本人会（招待講演）
４．発表年 2018年～2019年

１．発表者名 土屋礼子
２．発表標題 “The “Asian-hand” Journalists of Japanese Newspapers: Japanese Journalists in between Japan, Korea and China in the 20th Century”
３．学会等名 ケンブリッジ大学アジア中東研究学科（招待講演）
４．発表年 2018年～2019年

１．発表者名 土屋礼子
２．発表標題 「日中戦争期のアジアにおける英国の対日宣伝とジャーナリスト」
３．学会等名 国際シンポジウム「日中戦争をめぐるジャーナリズムとプロパガンダ」
４．発表年 2018年～2019年

１．発表者名 丁智恵
２．発表標題 「敗戦/解放直後の在日朝鮮人による民主主義メディアの萌芽と実践」
３．学会等名 東アジア日本研究者協議会
４．発表年 2018年～2019年

１．発表者名 丁智恵
２．発表標題 「NNNドキュメントが描いたアジアの戦争被害」
３．学会等名 日本映像学会
４．発表年 2018年～2019年

１．発表者名 中山大将
２．発表標題 「戦後サハリンにおける旧樺太住民慰霊碑等の建立史研究 ：樺太移民社会をめぐる複数の〈記憶〉と〈戦後〉」
３．学会等名 日本移民学会第28回年次大会自由論題報告
４．発表年 2018年～2019年

１．発表者名 中山大将
２．発表標題 ”Forestry and Agriculture in Subarctic Colony Karafuto (Southern Sakhalin)”
３．学会等名 International Workshop on “Empire Forestry Networks and Knowledge Production,”
４．発表年 2018年～2019年

１．発表者名 中山大将
２．発表標題 「中国語圏におけるサハリン樺太史研究：庫頁島中国固有領土論・山丹貿易・日本帝国植民地」
３．学会等名 サハリン樺太史研究会10周年シンポジウム「世界におけるサハリン樺太史研究」
４．発表年 2018年～2019年

１．発表者名 中山大将
２．発表標題 「サハリン／樺太史研究DB（データベース）について：個人作成資料目録の統合と活用」
３．学会等名 サハリン樺太史研究会10周年シンポジウム
４．発表年 2018年～2019年

１．発表者名 中山大将
２．発表標題 「境界地域史研究資料統合活用計画：研究者個々人が作成した未公開の資料目録の活用に向けて」
３．学会等名 第28回近現代東北アジア地域史研究会大会個別報告
４．発表年 2018年～2019年

１．発表者名 加藤恵美
２．発表標題 「日本への留学生と彼らのその後――中国・韓国・台湾の比較の観点から（日本の事例）」
３．学会等名 日本国際文化学会
４．発表年 2018年～2019年

１．発表者名 Emi Kato
２．発表標題 "Screen Memories of War and Colonialism in Japan"
３．学会等名 EU-Japan Forum
４．発表年 2018年～2019年

１．発表者名 成田龍一
２．発表標題 「井上ひさしのＰＬＡＹ」
３．学会等名 ＴＰワークショップ
４．発表年 2018年

１．発表者名 成田龍一
２．発表標題 「音声の「近代」をめぐる二、三のこと」
３．学会等名 神奈川大学常民文化研究所
４．発表年 2018年～2019年

１．発表者名 成田龍一
２．発表標題 「『言葉と戦車』をめぐって―加藤周一の１９６８年」（Words and Violence: Global History of the 1968 Protests in Japan and its Contemporary Meaning）
３．学会等名 オランダ　ライデン大学
４．発表年 2018年～2019年

１．発表者名 成田龍一
２．発表標題 「歴史と歴史小説のあいだ」
３．学会等名 流山市立博物館友の会　総会講演会（招待講演）
４．発表年 2018年～2019年

１．発表者名 成田龍一
２．発表標題 「主婦論争を知っていますか―高度経済成長のなかの女性と家族」
３．学会等名 神奈川歴史教育研究会（招待講演）
４．発表年 2018年～2019年

１．発表者名 成田龍一
２．発表標題 「近現代日本史を学ぶということ」
３．学会等名 ネタ権（招待講演）
４．発表年 2018年～2019年

１．発表者名 成田龍一
２．発表標題 「「戦後」のヒストリオグラフィー」
３．学会等名 広島市立大学（招待講演）
４．発表年 2018年～2019年

１．発表者名 平川幸子
２．発表標題 「80年台日本大衆音楽和 ” 中国 ” 的影響」
３．学会等名 中国海南師範大学（招待講演）
４．発表年 2018年～2019年

１．発表者名 平川幸子
２．発表標題 「80年台日本大衆音楽和 ” 中国 ” 的影響」
３．学会等名 国際問題研究所（招待講演）
４．発表年 2018年～2019年

１．発表者名 小菅信子
２．発表標題 「英国映画の中の日本軍をめぐる集合的記憶と和解の実践」
３．学会等名 2018年度第1回文化記憶班研究会
４．発表年 2018年～2019年

１．発表者名 丁智恵
２．発表標題 「60 年代日本のテレビドラマにおける植民地支配と戦争をめぐる『和解』」
３．学会等名 2018年度第1回文化記憶班研究会
４．発表年 2018年～2019年

１．発表者名 木村幹
２．発表標題 「日韓両国の慰安婦言説と映画」
３．学会等名 2018年度第1回文化記憶班研究会
４．発表年 2018年～2019年

１．発表者名 金泰植
２．発表標題 「「和解」の担い手としてのアイドル・ファン」
３．学会等名 2018年度第1回文化記憶班研究会
４．発表年 2018年～2019年

１．発表者名 加藤恵美
２．発表標題 「戦争と植民地に関する映画の分析」
３．学会等名 2018年度第２回文化記憶班研究会
４．発表年 2018年～2019年

１．発表者名 中山大将
２．発表標題 「NHKスペシャル30年における〈和解〉」
３．学会等名 2018年度第２回文化記憶班研究会
４．発表年 2018年～2019年

１．発表者名 成田龍一
２．発表標題 「和解の文学論のために」
３．学会等名 2018年度第３回文化記憶班研究会
４．発表年 2018年

１．発表者名 米倉律
２．発表標題 「テレビの『8月ジャーナリズム』における”アジア”の表象」
３．学会等名 2018年度第３回文化記憶班研究会
４．発表年 2018年～2019年

１．発表者名 平川幸子
２．発表標題 「80年代ミュージシャンたちの日中関係―「和解」時代の民間文化交流への示唆として―」
３．学会等名 2018年度第３回文化記憶班研究会
４．発表年 2018年～2019年

１．発表者名 浅野豊美
２．発表標題 「和解の規範ー歴史の外部へ」
３．学会等名 2018年度第４回文化記憶班研究会
４．発表年 2018年～2019年

１．発表者名 黄斌
２．発表標題 「日本の新聞メディアにおける『中華思想』」
３．学会等名 2018年度第４回文化記憶班研究会
４．発表年 2018年～2019年

１．発表者名 武井彩佳
２．発表標題 「映画/ドキュメンタリーにおけるホロコーストの表象の変遷」
３．学会等名 2018年度第４回文化記憶班研究会
４．発表年 2018年

１．発表者名 タンゲナ鈴木由香里
２．発表標題 「日蘭イ対話の会と和解」
３．学会等名 2018年度第４回文化記憶班研究会
４．発表年 2018年～2019年

１．発表者名 青山瑠妙
２．発表標題 「中国における記憶の構築と日中和解」
３．学会等名 2018年度第５回文化記憶班研究会
４．発表年 2018年～2019年

１．発表者名 土屋礼子
２．発表標題 「東アジアにおけるメディアと和解ー総論の見取り図」
３．学会等名 2018年度第５回文化記憶班研究会
４．発表年 2018年～2019年

１．発表者名 李海燕
２．発表標題 「中国の現代映像作品にみる戦時中「日本」表象の変遷」
３．学会等名 2018年度第５回文化記憶班研究会
４．発表年 2018年～2019年

１．発表者名 金泰植
２．発表標題 「朴正熙政権におけるヘゲモニー構築と在日朝鮮人ー反共映画における在日朝鮮人表象を中心にー」
３．学会等名 朝鮮史研究会例会
４．発表年 2018年～2019年

１．発表者名 小菅信子
２．発表標題 「２０世紀における平和思想の系譜と日本」
３．学会等名 第17回日韓歴史家会議（国際学会）
４．発表年 2017年～2018年

１．発表者名 木村幹
２．発表標題 ”The Role of Democracies and the International Order”
３．学会等名 Governance, Leadership and Legitimacy in East Asia（国際学会）
４．発表年 2017年～2018年

１．発表者名 木村幹
２．発表標題 ”Politics of the Kono Statement: The Road from Kim Haksun to the Asian Women’s Fund”
３．学会等名 Annual Conference 2018 of Association for Asian Studies（国際学会）
４．発表年 2017年～2018年

１．発表者名 木村幹
２．発表標題 ”Dilemma in Northeast Asia: North Korea, China and United States”
３．学会等名 The Maxwell School of Citizenship and Public Affairs, Syracuse University（国際学会）
４．発表年 2017年～2018年

１．発表者名 木村幹
２．発表標題 ”Key Note Speech “Structural Change in Northeast Asia: Between Rising China and US Populism”
３．学会等名 Symposium: The Future of East Asia After the Pivot（国際学会）
４．発表年 2017年～2018年

１．発表者名 木村幹
２．発表標題 ”The Third Wave of Demonstrations: Locating South Korean Democracy in the International Context”
３．学会等名 The World Congress for Korean Politics and Society 2017（国際学会）
４．発表年 2017年～2018年

１．発表者名 木村幹
２．発表標題 Plenary Session: "Rebuilding Trust in Peace and Democracy"
３．学会等名 The World Congress for Korean Politics and Society 2017（国際学会）
４．発表年 2017年～2018年

１．発表者名 木村幹
２．発表標題 ”How to Change Relations: A Case Study about Japan－South Korean relations”
３．学会等名 The Jeju Forum for Peace and Prosperity（国際学会）
４．発表年 2017年～2018年

１．発表者名 土屋礼子
２．発表標題 「戦後日本の週刊誌にみる中国及びアジア関係記事（ Articles on China and Asian countries in Japanese popular weekly magazines in the post-World War II period.）」
３．学会等名 国際シンポジウム「日中戦争における/関する宣伝と報道（Propaganda and Journalism during/on the second Sino-Japanese War 1937-1945）」
４．発表年 2017年～2018年

１．発表者名 土屋礼子
２．発表標題 「日中関係と日本の大衆ジャーナリズム～週刊誌を中心に」
３．学会等名 ジャーナリズム研究日中三大学合同シンポジウム「メディア運営と社会的役割」
４．発表年 2017年～2018年

１．発表者名 土屋礼子
２．発表標題 「日中戦争開始期の中国における英国および日本の宣伝活動」
３．学会等名 国際シンポジウム「日中戦争をめぐる報道と宣伝及びインテリジェンス」
４．発表年 2017年～2018年

１．発表者名 平川幸子
２．発表標題 「アジア太平洋のリベラルな地域秩序―ASEANと台湾に光を」
３．学会等名 アジア政経学会
４．発表年 2017年～2018年

１．発表者名 平川幸子
２．発表標題 「中国のエネルギー政策と地域主義外交―『一帯一路』のモデルとしての中央アジア」
３．学会等名 国際政治学会
４．発表年 2017年～2018年

１．発表者名 加藤恵美
２．発表標題 「朝鮮学校を対象とした大学生の演習手法」
３．学会等名 日本国際文化学会
４．発表年 2017年～2018年

１．発表者名 中山大将
２．発表標題 「近現代東アジア境界地域における残留現象の比較相関研究」
３．学会等名 日本移民学会
４．発表年 2017年～2018年

１．発表者名 中山大将
２．発表標題 「東アジアにおける境界変動と人口移動の中の日本人引揚げの位置」
３．学会等名 日本移民学会
４．発表年 2017年～2018年

１．発表者名 米倉律
２．発表標題 「テレビの『八月ジャーナリズム』におけるアジアの表象」
３．学会等名 メディア史研究会
４．発表年 2017年～2018年

１．発表者名 小林聡明
２．発表標題 「日本大学新聞学科と冷戦（1）－ 米国文書から見る Frank Luther Mott 教授の役割－」
３．学会等名 日本大学法学部新聞学研究所 2017 年度 第 1 回研究会
４．発表年 2017年～2018年

１．発表者名 小林聡明
２．発表標題 「韓国研究の形成と冷戦－韓国外交文書の分析を中心に」
３．学会等名 アジア政経学会
４．発表年 2017年～2018年

１．発表者名 小林聡明
２．発表標題 「戦後東アジアの新聞学／マスコミ研究の系譜学－冷戦とアメリカの視点から」
３．学会等名 日本マスコミュニケーション学会
４．発表年 2017年～2018年

１．発表者名 小林聡明
２．発表標題 "Psywar Network and Japan-Tokyo, Koje-do, and Okinawa"
３．学会等名 国際シンポジウム『朝鮮戦争と東アジアの捕虜：選択と「中立」』梨花女子大学（国際学会）
４．発表年 2017年～2018年

１．発表者名 小林聡明
２．発表標題 「在沖朝鮮半島出身者の「権利」としての協定永住（権）申請と日本政府の対応-沖縄返還前後の動きに注目して」
３．学会等名 地域間シンポジウム「制度と権利のあり方を問い直す：国際政治と草の根の視点から」
４．発表年 2017年～2018年

１．発表者名 小林聡明
２．発表標題 "Journalism Education in Postwar East Asia: Focusing on the Role of Dr. Frank L. Mott during the Allied Occupation of Japan"
３．学会等名 Workshop on Cold War and Knowledge in East Asia
４．発表年 2017年～2018年

１．発表者名 小林聡明
２．発表標題 「ローカルな記憶／グローバルな価値－日韓歴史和解の試みと挫折、そして課題」
３．学会等名 学内学会シンポジウム
４．発表年 2017年～2018年

１．発表者名 小林聡明
２．発表標題 「歴史和解のためのメディアの役割ー今後の方向性と課題をめぐってー」
３．学会等名 2017年度文化記憶班第1回研究会
４．発表年 2017年～2018年

１．発表者名 浅野豊美
２．発表標題 「戦後日米関係の展開の中の日韓関係」
３．学会等名 同志社大学・朝鮮史研究会（招待講演）
４．発表年 2017年～2018年

１．発表者名 浅野豊美
２．発表標題 「占領下戦後東アジア復興計画と賠償問題」
３．学会等名 占領戦後史研究会（招待講演）
４．発表年 2017年～2018年

〔図書〕　計26件

１．著者名 浅野豊美	４．発行年 2023年
２．出版社 明石書店	５．総ページ数 417
３．書名 『想起する文化をめぐる記憶の軋轢ー欧州・アジアのメディア比較と歴史的考察（和解学叢書第６巻）』	

１．著者名 中山大将	４．発行年 2019年
２．出版社 清水書院	５．総ページ数 117
３．書名 歴史総合パートナーズ?I　国境は誰のためにある？：境界地域サハリン・樺太	

１．著者名 中山大将(蘭信三、川喜田敦子、松浦雄介編)	４．発行年 2019年
２．出版社 名古屋大学出版会	５．総ページ数 341
３．書名 『引揚・追放・残留：戦後国際民族移動の比較研究』（「第12章　残留の比較史：日ソ戦後のサハリンと満洲」を担当）	

１．著者名 中山大将(三谷博、張翔、朴薫編)	４．発行年 2019年
２．出版社 東京大学出版会	５．総ページ数 425
３．書名 『響き合う東アジア史』（「第18章　帝国解体の後：旧樺太住民の複数の戦後」を担当）	

１．著者名 武井彩佳	４．発行年 2019年
２．出版社 リトン	５．総ページ数 205
３．書名 ユダヤ教とキリスト教	

１．著者名 福田保	４．発行年 2018年
２．出版社 春風社	５．総ページ数 250
３．書名 『アジアの国際関係』（青山瑠妙「第4章　中国とアジア：中国による『関与政策』と影響力の拡大」）	

１．著者名 Shihoko Goto, Rumi Aoyama, Abraham Denmark	４．発行年 2018年
２．出版社 Wilson Center	５．総ページ数 38
３．書名 U.S. National Security Strategy: Implications for the U.S.-Japan Alliance	

１．著者名 Tse-Kang Leng and Rumi Aoyama	４．発行年 2018年
２．出版社 Palgrave Macmillan	５．総ページ数 180
３．書名 Decoding the Rise of China: Taiwanese and Japanese Perspectives	

１．著者名 青山瑠妙	４．発行年 2018年
２．出版社 21世紀政策研究所	５．総ページ数 100
３．書名 『21世紀政策研究所新書74 『中国の国際社会におけるプレゼンス』（習近平政権の対外戦略と世界秩序）	

１．著者名 日本村落研究学会企画、永野由紀子編	４．発行年 2018年
２．出版社 農文協	５．総ページ数 324
３．書名 『年報　村落研究54　イエの継承・ムラの存続：歴史的変化と連続性・創造』	

１．著者名 中山大将（編）	４．発行年 2018年
２．出版社 サハリン樺太史研究会	５．総ページ数 14
３．書名 『サハリン樺太史研究会2017年度活動報告書』	

１．著者名 中山大将	４．発行年 2019年
２．出版社 国際書院	５．総ページ数 389
３．書名 『サハリン残留日本人と戦後日本：樺太住民の境界地域史』	

１．著者名 飯尾 潤、磯﨑 憲一郎、一柳 慧、井上 章一、臼杵 陽、大島 まり、小平 麻衣子、門脇 厚司、金井 景子、玄田 有史、坂本 龍一、島薗 進、高橋 悠治、谷川 俊太郎、中沢 けい、成田 龍一、沼野 充義、根岸 英一、東 直子、水野 和夫、吉増 剛造、李 禹煥	４．発行年 2018年
２．出版社 左右社	５．総ページ数 344
３．書名 『高校生と考える希望のための教科書』	

１．著者名 成田 龍一	４．発行年 2019年
２．出版社 集英社	５．総ページ数 496
３．書名 『近現代日本史との対話 幕末・維新―戦前編』	

１．著者名 日本大学法学部新聞学研究所、米倉律、小林義寛、小川浩一	４．発行年 2018年
２．出版社 森話社	５．総ページ数 336
３．書名 『ローカルテレビの60年』	

１．著者名 海老澤　衷、近藤　成一、甚野　尚志	４．発行年 2019年
２．出版社 吉川弘文館	５．総ページ数 296
３．書名 『朝河貫一と人文学の形成』（浅野豊美「「朝河貫一の占領下民主化政策批判と自由の源泉・象徴としての天皇制ー憲法9条改正問題と国民性概念を中心に」）	

１．著者名 堀 和生、萩原 充	４．発行年 2019年
２．出版社 京都大学学術出版会	５．総ページ数 466
３．書名 『“世界の工場”への道ー２０世紀東アジアの経済発展』（浅野豊美「東アジア工業化の国際環境と戦後日本」）	

１．著者名 木村幹（玉田芳史編著）	４．発行年 2017年
２．出版社 晃洋書房	５．総ページ数 280
３．書名 『韓国における司法部の党派性の喪失と回復：民主化以後の行政部の司法統制」『政治の司法化と民主化』	

１．著者名 上野 千鶴子、佐藤 文香、姫岡 とし子、山下 英愛、岡田 泰平、平井 和子、成田 竜一、木下 直子、樋口 恵子、茶園 敏美、蘭 信三、猪股 祐介	４．発行年 2018年
２．出版社 岩波書店	５．総ページ数 384
３．書名 『戦争と性暴力の比較史へ向けて』	

1．著者名 チョ　ファスン、ハン　ギュソプ、キム　ジョンヨン、チャン　スルギ、木村　幹、藤原　友代	4．発行年 2017年
2．出版社 白桃書房	5．総ページ数 196
3．書名 『ビッグデータから見える韓国』	

1．著者名 土屋　礼子	4．発行年 2017年
2．出版社 吉川弘文館	5．総ページ数 370
3．書名 『日本メディア史年表』	

1．著者名 土屋　礼子、井川　充雄	4．発行年 2018年
2．出版社 ミネルヴァ書房	5．総ページ数 328
3．書名 『近代日本メディア人物誌』	

1．著者名 竹内 幸絵、難波 功士	4．発行年 2018年
2．出版社 思文閣出版	5．総ページ数 316
3．書名 『広告の夜明け－大阪・萬年社コレクション研究』（土屋礼子「萬年社コレクションにみるアジアの新聞と広告」）	

１．著者名 浅野豊美、小倉紀蔵、西成彦編著	４．発行年 2017年
２．出版社 クレイン	５．総ページ数 336
３．書名 『対話のために：「帝国の慰安婦」という問いをひらく』	

１．著者名 島崎哲彦・米倉律（共編著）	４．発行年 2018年
２．出版社 学文社	５．総ページ数 252
３．書名 『新 放送論』	

１．著者名 小林聡明	４．発行年 2017年
２．出版社 チンジンイン（ソウル）	５．総ページ数 34
３．書名 『（邦訳）熱戦のなかの冷戦、冷戦のなかの熱戦-冷戦アジアの思想心理戦』	

〔産業財産権〕

〔その他〕

国際和解学研究所 https://www.waseda.jp/prj-wakai/

戦後日本　戦争・植民地映画データベース https://www.waseda.jp/prj-memory/

歴史紛争和解事典 http://www.prj-wakai.com/wakaidict_top/
歴史紛争和解事典 https://www.waseda.jp/prj-wakai/east_asia/

国民的記憶と和解に向けたメディアの可能性シンポジウム（2019年10月27日）
http://www.prj-wakai.com/info_news/1376/
ジョージタウン大学小野田奈津先生コミュニティを揺さぶる劇場芸術家の告白（2019年11月11日）
http://www.prj-wakai.com/class_wakaibunka/1450/

長坂マイヤーズ陽子「硫黄島におけるコリアン兵―米国国立公文書館所蔵の資料紹介」http://www.prj-wakai.com/essay/659/

浅野豊美「書評　橋本伸也『記憶の政治』（岩波書店、2016年）」http://www.prj-wakai.com/essay/639/

小菅信子「メディアと他者表象をめぐる考察」http://www.prj-wakai.com/essay/49/
「アイヌ人骨返還問題をめぐるメディアと大学」http://www.prj-wakai.com/class_wakaibunka/134/

金泰植「第134回フォーラム（セウォ大学）『蒼（そらいろ）のシンフォニー』映画について」http://www.prj-wakai.com/class_wakaibunka/440/

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	土屋　礼子 (Tsuchiya Reiko) (00275504)	早稲田大学・政治経済学術院・教授 (32689)	
研究分担者	青山　瑠妙 (Aoyama Ruri) (20329022)	早稲田大学・国際学術院（アジア太平洋研究科）・教授 (32689)	
研究分担者	米倉　律 (Yonekura Ritsu) (20734726)	日本大学・法学部・教授 (32665)	
研究分担者	小菅　信子 (Kosuge Nobuko) (30319082)	山梨学院大学・法学部・教授 (33402)	
研究分担者	武井　彩佳 (Takei Ayaka) (40409579)	学習院女子大学・国際文化交流学部・教授 (32699)	
研究分担者	李　海燕 (Lee Kaien) (50708196)	東京理科大学・教養教育研究院 葛飾キャンパス教養部・准教授 (32660)	
研究分担者	成田　龍一 (Narita Ryuichi) (60189214)	日本女子大学・人間社会学部・研究員 (32670)	
研究分担者	丁　智恵 (Chou Chie) (90794545)	東京工芸大学・芸術学部・助教 (32708)	

6．研究組織（つづき）

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	平川　幸子 (Hirakawa Sachiko) (80570176)	早稲田大学・留学センター・准教授（任期付） (32689)	
研究分担者	中山　大将 (Nakayama Taisho) (00582834)	京都大学・東南アジア地域研究研究所・助教 (14301)	
研究分担者	木村　幹 (Kimura Kan) (50253290)	神戸大学・国際協力研究科・教授 (14501)	
研究分担者	加藤　恵美 (Kato Emi) (60434213)	公益財団法人東洋文庫・研究部・研究員 (72622)	
研究分担者	金　泰植 (Kim Taeshik) (20827406)	九州大学・比較社会文化研究院・特別研究者 (17102)	
研究分担者	小林　聡明 (Kobayashi Somei) (00514499)	日本大学・法学部・准教授 (32665)	

7．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計3件

国際研究集会 Challenge of Reconciliation Studies	開催年 2020年～2020年
国際研究集会 Development of Reconciliation Studies	開催年 2020年～2020年
国際研究集会 International Association for Reconciliation Studies	開催年 2020年～2023年

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
オランダ	日蘭イ対話の会			
英国	Cambridge University			
米国	George Mason University			